

稲作情報(令和4年5月15日)

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

1. 気象概況

アメダス観測値(白石)

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.6	17.0	-0.6	23.8	23.6	-0.2	12.0	10.3	-1.7	27.2	0.0	0	30.9	48.9	158
	2	18.3	19.7	1.4	24.5	25.2	0.7	12.8	15.3	2.5	29.3	1.0	3	30.5	21.6	71
	3	18.8			25.0			13.3			29.9			30.5		
	4	19.5			25.7			14.0			25.1			30.7		
	5	20.2			26.5			14.7			19.6			30.6		
	6	20.9			27.1			15.6			22.6			34.5		

○5月2半旬の平均気温は、平年に比べて1.4°Cほど高く推移した。また、曇天が続き平年に比べて寡照傾向となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報(5月12日発表)(予報期間 5月14日から6月13日まで)

向こう1カ月の気温は、冷涼な空気の影響を受ける時期もあるため低い。

向こう1カ月の降雨量と日照時間はほぼ平年並の見込み。

2. 水稲情報田の生育状況(調査日:5月15日)

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	32.6	337	8.5	48.1	・草丈および茎数は平年並み。 (1株あたり茎数が17~22本)
	平年値	33.1	331	8.6	43.7	・主稈出葉数は平年並み。 ・葉色は平年より濃い。
	平年比(差)	98	102	-0.1	+4.4	・6号分けつが発生し、株の開帳がみられる。

※ 平年値は、H22~R3年度の平均値

(管内の生育状況)

○現在、分けつ発生盛期である。株の開帳がみられ、常時湛水した圃場では草丈が軟弱徒長ぎみ。まもなく中干しの時期をむかえる。

3. 今後の管理(七タコシヒカリ)

(1)水管理

○現在、間断灌水による水管理の徹底が必要。

5月20日以降から有効茎(1株あたり20本程度の分けつ)が確保された圃場では、中干しに移行する。

中干しの開始時期は、移植時期によって異なるが、有効茎(1株あたり20本程度の分けつ)が確保でき、株が開帳しておおむね草丈が35~50cmを目途に実施する。

○中干し程度は、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とする。

○現在、常時湛水する必要はない(降雨が続くのであれば水尻を開けておく)



中干し程度
土壌表面に軽い亀裂がはいる



間断灌水

水尻をとめて自然落水で田面の水がなくなり足跡の底に水がたまる状態を見られたら、入水する

【参考】

(1) 中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止 → 1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 → 稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 → 過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 → 根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 → 根の健全化
- 6) 土壌透水性増加 → 根の量の増加
- 7) 株支持力の増加 → 倒伏防止
- 8) 圃場管理が容易

(2) 中干しの実施時期目安

→ 総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃を中心
止葉までの葉数の69%～77%の葉が出た時期が最高の時期。
ほぼ有効分けつ決定期(株当たり小さい分けつまで20本)
～穂首分化期(穂の基が茎の中で出来る時)

(3) 中干しの期間と程度(強弱)は？

中干し期間は5～7日天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わってくる。

圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらい。

つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想。

しかし生育量や葉色によっても加減が必要である。

手のひらが縦にはいるようなヒビ(強い中干し)は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。

(2) 病虫害防除

- 補植用の『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。

令和4年産 水稲作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

